

●鳥をたくさん観ることができるこの季節、バードウォッチングでもいかがでしょうか？

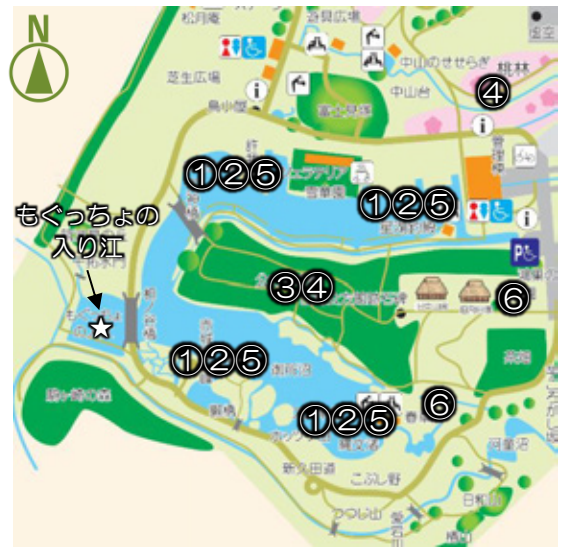
毎年冬になると北国から渡り鳥が飛来し、夏とは違う種類の鳥を楽しむことができます。また、留鳥も多く観察できる季節です。公園内の鳥の生態を観察すると新しい発見があるかもしれませんね！

●コガモは日本で最小のカモ類

■コガモは、真冬の水辺にいるのをよく見かけます。一見普通のカモに見えるのですが、ひときわ小さい見た目と、オスの頭部に鮮やかな色彩を見ることができます。カルガモより小さく、ハトよりちょっと大きいくらいの大きさで、国内で確認されるカモのなかでは最小の種です。日本で越冬する際につがいになり、帰った先の北国で繁殖します。



①コガモ



●マガモは古くから狩猟の対象とされてきました

■マガモは古くから狩猟の対象として扱われていました。現在でも鳥獣保護法でカモ類は狩猟の対象となっており、質・量ともに最高位とされています。そのためマガモはアヒルとして家禽となり、アイガモはアヒルとマガモの掛け合わせたものとして広まっています。しかし、近年アイガモ農法として水田で使われるアイガモが野飼



②マガモ

されるようになり、マガモとアイガモの区別がつかない個体が出現し始めました。そのため、家禽の個体と野生種の間に遺伝子汚染が広がっているのではないかと危惧されています。

●カイツブリの別名はもぐっちょ

カイツブリの別名は「もぐっちょ」と言います。その呼び名の通り、潜水が得意な鳥で、水中の小魚や昆虫、ザリガニなどをよく食べています。水面からフツといなくなったかと思うと少し離れた水面からヒョコッと姿を現します。園内には「もぐっちょの入り江★」という場所があるので、その周辺で姿を観ることができるかもしれませんね！



⑤カイツブリ

●キツツキの仲間たち、アカゲラとコゲラ

■公方様の森の中で「コココココッ」と聞かれない音が聞こえるときがあります。これはキツツキの仲間アカゲラが木の幹を叩いて穴をあけている音です。一秒間に20回もの速度でくちばしの先端を木にたたきつけ木を削っているのです。また、



③アカゲラ

公方公園にはコゲラというアカゲラより一回り小さいキツツキも生息しています。桃林を歩いているとよく見かけるので、「コココココッ」という音がしたら周囲の木を観察してみてもいいかもしれません。キツツキを見つけることができるかもしれませんよ。



④コゲラ

●メジロは花の蜜が好き

冬から春にかけて、花に群がる鳥がいます。それがメジロ。緑色の体に白いアイラインが特徴の小鳥です。冬のサザンカが咲くころになると古民家に多くのメジロが花の蜜を求めてやってきます。サザンカが終わるとウメ、ハナモモ、サクラと立て続けに花の季節が続くので、メジロにとって、この公園は居心地のいい場所なのかもしれませんね。



⑥メジロ

●乾燥するこの季節、感染症対策をしっかり行い、健康に気を付けて冬の公園を楽しんでください。

●徐々に春の足音が聞こえてきます。

梅の花が咲き始め、時々暖かい日差しが春の気配を感じさせるこの季節ですが、まだ寒い日が続いています。暖かい服装で散歩して、公園をてくてく散歩してみたいはいかがでしょうか。

○ふわふわ毛皮のネコヤナギ

■この時期になると、園内には、銀色の毛に覆われた、まるで猫のしっぽのような花穂が付いた木を目にします。この木はネコヤナギといって、川辺に自生する樹木として古くから日本人に親しまれてきました。形がユニークで、趣があるため、生け花の材料としても使われるそうですよ。



①ネコヤナギ

各地で異なるネコヤナギの呼び名

ネコヤナギには地方によって様々な呼び名があります。「ネコネコ」、「ニャンコロ」など猫に由来するものや、犬に由来する「エノコロ」、東北地方では牛に由来する「ベコヤナギ」といったその土地によって異なる呼び名があるそうです。（※諸説あります。）川や田の畔などによく見られることや、多くの呼び名があることから、人にとって身近な植物だったのかもしれませんが。

○御所の梅林

■民家園の南側の斜面には、茶畑と並んで梅林があります。「御所の梅林」と名付けられたこの地には地名碑が建っており、「鴻巣の野御所にいたってにわかに傾き沼に落ちんとす。梅の林これを掩（おお）う。よって名づく。」とその由来が記されています。さてこの季節になると、北西風を公方様の森が遮ってくれるため、あたたかな冬の日差しを体で感じるができます。おススメは午前中で、特にウメの開花直後の朝などは、とても新鮮なウメの花の香を楽しむことができます。まだ朝は寒い季節ですが、朝の散歩がてら御所の梅林でウメの香りを楽しんではいかがでしょうか？



②ウメ

梅は奈良時代から人気だった！？

万葉集には梅をうたった歌が120首もあり、萩に次いで多く、梅は奈良時代の人々を大いに魅了していたようです。また、令和の元号のもとになったのも万葉集の梅を詠んだ歌でした。今も昔も日本人は、厳しい冬を乗り越え春を告げる「梅」という植物への想いが強いのかもしれませんね。

●まだまだ寒さの真ただ中、暖かい服装で公園を楽しんでください。

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



○オニグルミの葉痕

■冬になるとオニグルミの枝に、ヒツジの顔の形が出現することがあります。これは葉痕といって、葉っぱが木の枝から落ちたときにできる傷跡の模様です。特にオニグルミの葉痕は、ヒツジだけではなく、サルやピエロの顔にも見えることがあります。一つ一つに個性があります。みなさんもオニグルミの木を見つけたら、葉痕を探してみてください。新たな発見があるかもしれませんよ。



③オニグルミ

冬になると葉が落ちるのはなぜ？

冬は日照時間が短いため、太陽の光から成長するのに十分な栄養を作り出せなくなります。また、冬は気温が下がるため、乾燥した地面から水分を吸い上げにくくなります。そのため葉がついていると光合成の効率が悪いうえに、葉から水分が蒸散してしまいます。そのため落葉樹は、葉に無駄な栄養や水が行かないよう自ら葉を落とし、厳しい冬に備えるのです。

●すべてのものが清らかで明るく、生き生きと見える季節です。

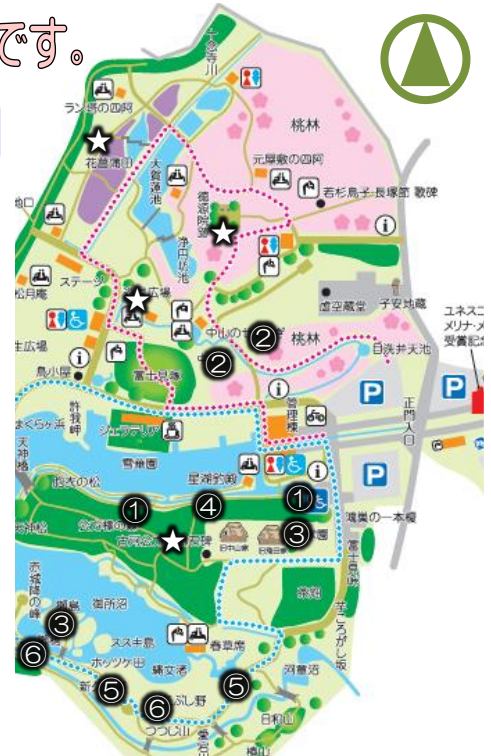
●公園内に咲くタチツボスミレ

園内には数種類のスミレが咲きます。その中でも数多く存在するのがタチツボスミレです。薄紫色の花で、地面からシュッと立ち上がるように茎をのばします。通常のスミレと比べ、葉がハート型になるのが特徴です。



特徴的なスミレの花の形

スミレを近くで見ると、特徴的な形をしていることがわかります。花弁は5枚で、そのうちのひとつが後ろに大きく、根元部分が袋状になっており、後ろに飛び出しています。この袋状の部分を距(きょ)といい、この距に花の蜜が溜まり、昆虫などが蜜を吸い込むことで花粉を付着させ、運んでもらう仕組みになっています。



今月の鳥 【シジュウカラ】

鳥の中でもいち早く春を告げるシジュウカラ。20以上の単語を組み合わせで話していることが明らかになり、国内外のメディアからも大きな注目を集めているそうです。秋から冬にかけて3～10羽の群れをつくり、さかんに会話しています。例えば、「ピーツピ チチチチ」という鳴き声は「警戒しながら、集まれ」という意味になります。公方公園では遊具広場近くの木や、トラエモン道、徳源院付近でよく見かけますよ。シジュウカラを見つけたらどんなおしゃべりをしているか耳を澄ませみて下さいね。



鳴き声	意味
ピーツピー	警戒して！
チチチチ	集まって！(近づいて！)
ツツピー	縄張りの確保、メスを誘う
ジャージャー	蛇がいる
チカチカ	カラスがいる
ヒーヒーヒー	鷹が来た

●古くから日本人に愛される八重桜(ヤエザクラ)

ヤエザクラはソメイヨシノに比べて花びらの数も多く、その名の通り、花びらが重なって八重咲になります。また、古くから日本人に親しまれており、多くの品種が存在します。開花時期はソメイヨシノのよりも1～2週間程度遅く、ソメイヨシノが散る頃にヤエザクラの開花が始まります。開花の時間もソメイヨシノに比べ、比較的長く楽しむことができます。



●ハナミズキとソメイヨシノの関係

ハナミズキは、明治時代末期に日本からアメリカにソメイヨシノを贈った返礼品として、大正時代に贈呈されたのが始まりです。原産国のアメリカでは国を代表する花のひとつとして親しまれています。園内でも、4月から5月にかけて白やピンクの花を咲かせます。



●似ている野草を見分けられるかな？

春に、公園を散歩していると、足元に小さな花を見かけることがあります。一見同じような花に見えても、花の形や葉っぱをよく見ると全然違う花だということに気が付きます。特に、ムラサキケマン、ヒメオドリコソウ、ホトケノザは、色や大きさが似ているので間違いやすい花です。小さな花ですが、その違いを観察してみると、いろんな発見があるかもしれませんね。



●花が咲き生命力満ち溢れるこの時期に、公園を散策して生き物の力強さを感じてみてはいかがでしょうか。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

●てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



外出が気持ちいい、散歩には最適の季節です。 新緑の緑豊かな公園を散歩し、自然の景色や森を吹き抜ける風で心を癒してください。

○カキツバタの試験栽培について

■カキツバタ園の整備に向けて、現在苗を試験的に栽培しています。場所は、芝生広場ステージの北側の坂道を下りた水路（十念寺川）を挟んで東側です。泥が鉄分でオレンジに染まっていますがそんな環境でもたくましく成長しています。通常ならば、植えてから2年目あたりで花が咲くのですが、今回植えたいいくつかの苗は、早くも花を咲かせそうです。楽しみに待ちましょう！



①カキツバタ

★鉄バクテリアについて

鉄分の多い水源のそばでは、水底がオレンジ色に変色し、水面に油膜のようなものが張ることがあります。これは、鉄バクテリアと呼ばれる細菌によって引き起こされる現象です。鉄バクテリアは、鉄イオンを酸化する際のエネルギーを栄養にして生活しています。その時に赤褐色の沈殿物や油膜のような皮膜が水面に発生します。

※油膜と鉄バクテリア被膜の見分け方

油膜は匂いがあり、鉄バクテリア被膜は匂いがありません。油膜は触るとすぐに元に戻りますが、鉄バクテリア被膜は触るとバラバラになり、くっつきません。

★要注意外来生物キショウブについて

水辺を散策すると、黄色い鮮やかな花を咲かせるキショウブを見かけることがあります。この植物は、非常に繁殖力が強く、湿地のほかにも林床など、水辺から離れたところにまで根付く植物です。根と種、両方で増えるため、一度増えると駆除するのが困難になります。園内にもちらほら見かけるため、駆除していかなければなりません。キショウブの陰に隠れて在来のカキツバタの育成が困難になることも考えられます。花がきれいなので、残念ですが、在来の生物を守るために駆除は致し方ない処置になります。



キショウブ

★古河公方公園 Twitter 公式アカウント開設！

古河公方公園の Twitter アカウントを開設しました！公園主催のイベントや、公園の生き物、風景などの情報をリアルタイムでお届けします。みなさんぜひフォローをお願いします！

https://twitter.com/kubou_park



カラスに注意

繁殖期のカラス、特に4月から6月のカラスは、ヒナを守るためにとても攻撃的になります。ご注意ください。



立入禁止（スズメバチ）

巣作りが終了し、働きバチが出始める6月から11月は、スズメバチが攻撃的になります。ご注意ください。

今月の鳥 【ムクドリ】

葉が茂ってきて、木の枝にとまる鳥を見つけるのが難しくなってきましたね。そんな時は地面にやってくる鳥を観察してみたいかがでしょうか。日中、地上を歩いて餌を探すムクドリの姿をあちらこちらで見ることが出来ます。棕（むく）木の実を好むことからムクドリと名付けられたそうですが、基本的に雑食で、昆虫や幼虫なども食べます。外敵から身を守るために夕方になると大きな群れを作って、捕食者の少ない街中の木に寝床を探します。今では害鳥とも言われてしまうムクドリですが、昔は農作物に付く害虫を食べてくれる益鳥だったそうですよ。



★ムクドリ

○きれいに染まるイロハモミジの実



②イロハモミジ

モミジというと、秋に葉が赤くなる風景が脳裏に浮かびますが、初夏のこの季節に鮮やかなピンクに染まる実の色彩もおすすめですよ。散歩がてら新緑の中にひっそりと色づくイロハモミジの実を探してみたいかがでしょうか？



○梅雨時期の公園は、色々な表情を見せてくれます。

○古くから日本人に愛されているアジサイの花

■新緑の季節が過ぎ、雨の季節が始まります。この季節、真っ先に思い浮かぶのがアジサイの花。梅雨の時期の定番といってもいい花です。古くから日本人に愛されており、奈良時代の万葉集にも登場しています。アジサイの原種は日本に自生しているガクアジサイです。そのガクアジサイを品種改良したものが、球状に咲く一般的なアジサイ（ホンアジサイ）です。



①ガクアジサイ



②ホンアジサイ

●アジサイはどうやって増やすの？

アジサイは、種や挿し木で増やすことができます。とくにおすすめるのは挿し木。6月あたりから剪定した枝を使って挿し木にするといいですよ。真夏の暑い時期は植物への負荷が強いため、6～7月あたりに行うとうまういきます。みなさんも挑戦してみたいはいかがでしょうか？

●今月の鳥 キジ

桃太郎の鬼退治でおなじみの鳥。尾が長く、「ケーンケーン」という鳴き声が特徴。国鳥でもあり、万葉集ではキジを詠んだ歌が何首かあるほど昔から日本人とかかわりの深い鳥です。繁殖期はつがいで行動し、メスが子育てをします。「焼野の雉（きぎす）、夜の鶴」ということわざ（親が子を思う愛情の深さのたとえ）にもあるように、親キジは子がいる野が焼かれようものならば自らを犠牲にしても子を救い出す、という愛情深い鳥でもあります。



③キジ



○梅雨の晴れ間によく映える、大輪の大賀ハス

■毎年6月下旬になるとハス池には「大賀ハス」が咲き始めます。1975年に千葉市から頂いた大賀ハスの根2本を大切に育て、現在は3000㎡のハス池を埋め尽くすほどになりました。大賀ハスは別名「古代ハス」とも呼ばれ、通常のハスより大きな花を咲かせます。咲いている花に近づくと、太古から変わらぬ高貴な香りを楽しむことができます。

●大賀ハスとは？

千葉市で約2000年前の地層から蓮の実が3個発見され、そのうち1個の発芽に成功。発掘にあたった大賀一郎博士の名にちなみ、「大賀ハス」と名付けられました。



④大賀ハス

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップロードしますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

Instagram https://www.instagram.com/koga_kubou/

Twitter https://twitter.com/kubou_park

■インスタグラムアカウント



■ツイッターアカウント



○これから蒸し暑い時期が続きます。散歩するときは体調管理に気を付けて、水分補給を忘れずに行いましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



●梅雨が明け、空の青さに夏らしさを感じます。

●ハンゲショウ(半夏生)の不思議

●ハンゲショウは、水辺や湿地に生える植物で、6月から8月に花を咲かせます。不思議なのは、花の時期だけ花に近い葉の色が抜け、白い花びらのように見えます。これは、花粉を運ぶハナアブなどの昆虫に、花がどこにあるか知らせる役割があるといわれています。そして、花期が終わると再び緑色に戻ります。



①ハンゲショウ

■ハンゲショウの名の由来

七十二候（しちじゅうにこう）のひとつである「半夏生」の頃に葉が白くなるから、という説や、葉の半分が白くなり、半化粧のようであるから、など諸説あります。

今月の鳥 「コゲラ」

コゲラは全長 13～15 cmと日本で一番小さなキツツキです。通常は「ギー」と鳴きますが、繁殖期に入ると縄張り争いなどで「キッキキキ」と甲高い声で鳴きます。小さいので固い木に穴を掘ることはできませんが、枯れ枝を見つけそこに巣穴を掘ります。キツツキが木をつつくのは、巣穴やねぐらを作るだけでなく、木の中にいる虫を捕るためやドラミングなどの目的もあります。コゲラのドラミングは短くて音が弱いので、よく耳を澄ませて探してみてくださいね。

※ドラミングとは、求愛やなわばり宣言などのコミュニケーションのために木をたたいて音を出すことで、さえずりと同じ役割をするといわれています。



②コゲラ



●白く幻想的なカラスウリの花

●カラスウリの花は、白色で、特徴的な形をしています。花びらのふちが糸のように広がっており、複雑な形状をしています。夜にこの花に出会うと、まさしく幻想的な気分になります。しかし、開花している時間はとても短く、日没とともに咲き始め、翌朝にはしぼんでしまう一夜花です。



③カラスウリ

●ハスの果托(かたく)の変化

●ハスの果托は、花びらが落ちてから時間と共に変化していきます。中の種が成長するとともに果托も大きくなります。それと同時に、種を落とすために果托に何力所も穴が空きます。茎が枯れて果托がうなだれてくると、中の種が風や重力でポトリと水に落ち、その種が次の代へとつながるのです。



④オオガハス

花びらや雄しべがなくなり、つるりとした果托が残ります。



雌しべがあった根元に穴が開き、中の種子が見えてきます。



果托が乾燥し、種が落ちる準備ができました。

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップロードしますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

Instagram https://www.instagram.com/koga_kubou/

Twitter https://twitter.com/kubou_park

■Instagramアカウント



■ツイッターアカウント



●こまめに水分補給をしながら、日陰などを利用して、熱中症に気を付けて公園散策を楽しんでください。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣 399-1 電話 0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●水分補給を忘れずに！無理せず木陰で十分な休憩を！

今年も暑い夏が始まりました。木陰を利用しながらてくてく散歩を楽しんでください。

●ホオズキは、霊を導く提灯！？

●8月になると、ホオズキの実を包むガクがきれいな朱色に染まります。日本では、お盆に先祖の霊が帰ってくるといわれ、枝付きのホオズキの実を提灯に見立て飾っていました。ホオズキを「鬼灯」と書くのはそういった理由があるからだそうですよ。



①ホオズキ

●盆花といえば、オミナエシ(女郎花)

●オミナエシは秋の七草のひとつに数えられ、万葉集にも登場し、源氏物語にも登場する、古くから人々に愛されている植物です。また、お盆に盆棚に備える盆花としても使われます。日当たりのよい草地に生えますが、全国的に数が少なくなってきました。背丈の高い外来種が増え、居場所を奪われているからだといわれています。



②オミナエシ

●美しい秋の七草だけど、迷惑な雑草のクズ(葛)

●クズは、世界の侵略的外来種ワースト100に選ばれているほど繁殖力が強い植物です。その生命力あふれる根にはデンプンが多く含まれており、砕いて精製したものを葛湯や葛切り、葛餅などにして日本では古くから食用として用いられていました。花は美しいのですが、他の植物に覆いかぶさり枯らしてしまうので、公園では増えすぎないように駆除を行っています。



③クズ

●古くから愛されているハギ(萩)の花

●秋の七草の一つでもあるハギは、万葉集に141首と最も多く詠まれているほど古くから人々に親しまれている植物です。着物や帯の柄や、食器、焼き物など様々な工芸品のモチーフとして用いられています。また、茶室の天井、垣根などの材料として使用されています。



④ハギ

■秋の七草の覚え方

オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギ 「お好きな服は？(オスキナフクハ)」と覚えましょう。



⑤カワラナデシコ

●夏といえばサルスベリ(百日紅)

●毎年この時期になるとサルスベリが見頃になります。漢字で「百日紅」と書くように、花期が長く、7月～10月まで楽しむことができます。



⑥サルスベリ



■今月の鳥 「カイツブリ」

カモの雛かな？と思ってしまうほど、小型のカモより小さいカイツブリ。観察すると、何度も何度も潜水を繰り返す姿が見られます。30秒近く潜ることができ、小魚や水生昆虫などを捕まえて食べます。潜水が得意なことから、この辺りでは「もぐっちょ」と呼ばれています。繁殖期(4月から7月)には水草や枯れ草を上手に使って、水に浮いているように見える浮き巣を作り、子育てをします。子育ての時期には、親鳥が雛を背中に乗せて泳ぐ愛らしい様子が見られることもあるかもしれません。



★カイツブリ

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップロードしますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

Instagram https://www.instagram.com/koga_kubou/

Twitter https://twitter.com/kubou_park

■Instagramアカウント



■Twitterアカウント



●この季節は日差しが強く、気温も高いので、熱中症にはくれぐれもご注意ください。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

〇てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●残暑が続いています。水分補給を忘れずに！

草木も秋の装いに変化しています。よく観察してみてくださいね！

○ヒガンバナはクローン植物

●ヒガンバナは染色体の関係上、種子を作ることが出来ず、球根でのみ増えます。つまり全ての個体が分裂で増える同じ遺伝子を持つクローンなのです。球根でしか増えることが出来ないため、元の株のそばか、人為的、もしくは何らかの影響で球根が運ばれてきた場所にのみ新しい芽を出します。

■植物のクローンとは？

自然界では同一の遺伝子情報をもつ個体をクローンといいます。植物の場合、遺伝子が組み変わることなく日常的にクローンを作り出し、繁殖しています。身近なところというと、球根で増える植物（チューリップやニンニク等）、イモで増える植物（サトイモ、ジャガイモ、サツマイモ等）、地下茎で増える植物（タケ等）、その他にも葉で増える植物もあります。また、挿し木や接ぎ木など、人為的に増やす方法もあります。

○ヒガンバナの変わった生態

●秋の彼岸の時期になると、園内のあちこちで赤い放射状の花を目にします。最初に花茎がニューっと伸びて花だけ咲き、秋から冬、翌年の春の草が生えない頃に青々とした葉を広げ、春になり、他の草木が生い茂る頃に葉が枯れて休眠時期に入ります。似たような生態をもつ植物としてコルチカム（イヌサフラン）があります。

○十五夜のお供え物

●令和5年の十五夜は、9月29日（金）です。ところで、十五夜にはお供え物をしますが、何を供えるか皆さんご存じでしょうか。一般的には、お団子、すすき、その時期の収穫物（サトイモなど）です。月見団子は満月に、すすきは稲穂にそれぞれ見立てています。また、お供えをした月見団子を食べると、健康と幸福が手に入るそうです。さらに、すすきには魔除けの効果もありお月見に供えたすすきを軒先に吊ると無病息災につながるともいわれています。

■お月見のルーツについて

お月見の起源は中国で、それが平安時代の貴族の間で広まったのが現在のお月見のルーツといわれています。平安時代のお月見は、直接月を眺めるのではなく、水面や盃に映る月を愛でていたそうです。平安時代に思いを馳せながら、水面に映る月を楽しむのも風情がありますね。

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップロードしますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

Instagram https://www.instagram.com/koga_kubou/

Twitter https://twitter.com/kubou_park

■Instagramアカウント



■Twitterアカウント



■今月の鳥 「アオサギ」

今、映画で話題のアオサギ。ペリカン目サギ科アオサギ属に分類され、国内ではもっとも大きなサギです。青みがかった灰色の羽根をしており、そこからアオサギと呼ばれるようになりました。凛として迫力のある姿ですが、清少納言の「枕草子」ではサギは不格好な鳥として表現されています。それとは反対に海外では縁起のよい鳥とされ、古代エジプトでは再生の象徴でもありました。集団でコロニーを作り、毎年同じつがいで行動しますが、繁殖期以外は単独行動することが多いようです。公園内で見かけるアオサギも単体の場合がほとんどです。



①ヒガンバナ



②コルチカム



★すすきの小径

ようやく涼しい季節がやってきました。

●キンモクセイはクローンだった！？

■キンモクセイは中国原産の樹木で、日本に渡来したのは江戸時代のこと。そのほとんどが雄株で結実しません。挿し木で増やしたため、みな同じ遺伝子を持つクローンなのです。そのため、同じクローン植物のソメイヨシノなどと同じように、キンモクセイはみな同じタイミングで一斉に開花するのです。

📖日本の「三大香木」

- ・春：ジンチョウゲ（沈丁花）
- ・夏：クチナシ（梔子）
- ・秋：キンモクセイ（金木犀）

※「四大香木」というときは、冬に咲くロウバイ（蜡梅）を入れます。



①キンモクセイ

●食虫植物イヌタヌキモ

■イヌタヌキモは水生の食虫植物で、茎についている袋のような器官（捕虫囊）でミジンコやボウフラ、小さいタニシなどを捕食します。その袋には内側に開くフタが付いていて、ミジンコなどがフタの突起部分に触れるとフタが開き、減圧している袋に生き物ごと吸い込まれまれ、袋の中の水圧が外側と同じになるとフタが閉じます。この植物は根を持たないので、水中に浮遊しながら捕まえた生き物から栄養を摂取することで生きているのです。



②イヌタヌキモ

📖ムジナモとイヌタヌキモの違い

朝の連続テレビ小説「らんまん」に出てきたムジナモも、イヌタヌキモと同じく水生植物で、根がなく水中を浮遊しながら生息する食虫植物です。しかし、イヌタヌキモが捕虫囊に吸い込んで捕食するのに対し、ムジナモは食虫葉をもつモウセンゴケ科の植物で、二枚貝のような葉を感覚毛による刺激を通じて開閉し捕食します。また、イヌタヌキモは種を作らないのに対し、ムジナモは種子で増えます。こうしてみると、姿や形は似ていても、全く別の植物なのわかりますね。

※「らんまん」のムジナモの放送週で、万太郎がムジナモを発見する場面を含め、いくつかのロケーションは古河公方公園内で撮影されました。（公園のSNSで紹介してます。）

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップしていますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- ・Instagram @koga_kubou/
- ・X (旧 Twitter) @kubou_park

今年は残暑が厳しく、10月に入りようやく秋が始まった感じがします。食欲も旺盛になる季節ですが、運動もしっかり行い、健康な体を手に入れましょう！



■今月の鳥 「ハクセキレイ」

ハクセキレイはカラスやスズメなどと同じように、人間の生活に近いところまで生息範囲を広げた野鳥です。人間に対する警戒心が弱い反面、縄張り意識が強い鳥でもあります。この公園のように水辺に近い場所を好む鳥で、園内では長い尾羽を上下に動かしながら、地上の昆虫類などを食べ歩可愛らしい姿を見ることができます。なぜ尾を上下にふるのかは、未だ謎に包まれています。



★ハクセキレイ

Instagramアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●涼しくて体を動かしたくなる秋です。しっかり寝てしっかり運動していい汗を流しましょう！

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

〇てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●秋は、植物が美しく色づく季節です。

朝晩が冷え込む時期になりました。日中との気温差に気を付けて、健康な体を作りましょう！

○甘い香りがするカツラの木

●カツラは、万葉集や古事記にもその名が登場し、古くから日本人に愛されている樹木です。ハート形の葉が特徴的で、秋になると黄葉し、カラメルのような甘い香りを漂わせます。

■カツラの甘い香りの正体は？

カツラは葉が色づき始めるとマルトールという物質を生成します。マルトールは糖類を熱分解したときに生成される物質で、カラメルやパンなどを作るときなどに出る甘い香りの成分の一つです。



①カツラ

ツヤハダゴマダラカミキリの脅威

園内の駐車場に植栽されているカツラの木について、現在剪定処理を行っている樹木が多くあり、その原因として、ツヤハダゴマダラカミキリという2023年9月1日に新しく特定外来生物に指定された昆虫による食害があります。

ツヤハダ
ゴマダラカミキリ

○食べられる！？スダジイの実

●スダジイはブナ科の中でもドングリを付ける品種で、その実はアク抜きの必要がなくそのまま食べられます。日本では縄文時代からドングリを食べていて、戦後間もない食糧難の時代などは貴重な食料源でした。ちなみに秋の味覚であるクリもブナ科の植物で、縄文時代から食べられていたそうですよ。



②スダジイ

○11月に咲くツワブキの花



③ツワブキ

●ツワブキは常緑の多年草で、ちょうど冬が始まる頃に黄色い花を咲かせます。日本では観賞用に日本庭園などに植栽されており、古くから親しまれている植物です。アクを抜いて食用にもできます。甘辛く煮込む保存食キャラブキの材料として、フキの代わりに使うこともあるそうですよ。



カキツバタ園
設置工事中
立入禁止

立入禁止
スズメバチ危険

■今月の鳥 「アカゲラ」

アカゲラは全長約 24 cm、中型のキツツキの仲間です。白黒の体に下腹部の赤い差し色が目を引きます。「緋（かすり）※の着物に赤い腰巻」と昔は例えられていたそうです。また、オスの後頭部には赤い羽毛が生え、メスは頭部全体が黒色になっています。鳴き声は「キョッキョッ」や「ケケケ」「ケレケレ」などと鳴きます。枯れ木をすばやくたたいて音を出す「ドラミング」も目印になります。これから葉が落ちる季節、姿も見つけやすくなるので、ぜひ耳を澄ませて探してみてくださいね。



④アカゲラ

※「緋（かすり）」とは、部分的に染めた織り糸を用いて、ところどころかすったような模様を織り出した織物。また、その模様のこと。

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップしていますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- Instagram @koga_kubou/
- X (旧 Twitter) @kubou_park

Instagramアカウント



X (旧ツイッター) アカウント



●涼しい秋風をてくてく散歩しながら、紅葉、黄葉した公園の木々を楽しんでみませんか？

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●いよいよ冬の始まりです。暖かい服装で、てくてく散歩してくださいね。

北風が吹くころになると、冬鳥が公園にやってきます。いろいろな種類の鳥たちを観察するのも楽しいですよ。冬の生き物たちの営みも興味深いですよ。

● 冬の風物詩、てくてく歩くオオバンの群れ

■オオバンは体が黒く、額とくちばしが白い鳥で、利用者の方に「あの鳥はなんて言う名前なの？」と頻りに尋ねられます。水生植物を主にエサとしていますが、この公園では、陸上の植物をついばむ姿を見ることが出来ます。歩きが得意なのか、群れを成したオオバンが草の上を移動しながらエサを食べている姿は、今や公園の冬の風物詩となっています。



①オオバン



②カルガモ

今月の鳥 「カルガモ」

秋から冬にかけて水辺では様々な水鳥が観察できます。普段よく見かけるくちばしが黒く先が黄色いカルガモは、カモの中で唯一渡りをせず一年中日本にいる留鳥です。ただし気温が低い地域に住む個体は冬になると南下するようで、北海道では夏鳥となっています。また、カモにしてはめずらしくオスとメスがほとんど同じ色をしています。これはカルガモの繁殖期の4月～7月に日本で繁殖するカモが他にいないため、オスが派手になる必要がないからと考えられています。

イノシシに注意！

見かけたら管理事務所へ連絡を！

●上品なピンク色のオトメツバキの花

■冬の時期に可憐なピンク色の花を咲かせます。幾重にも重なった花びらは非常に美しく、江戸時代に、その美しさから他藩に出回らないよう門外不出の椿という意味で「お止め椿」と呼ばれたのが語源のひとつだという説もあります。（※諸説あります。）



③オトメツバキ

▶イノシシに注意してください！

もしイノシシに出会ってしまったら…

1. 落ち着いてゆっくり行動しましょう。
慌てず、騒がず、イノシシを刺激しないよう、ゆっくりその場を離れましょう。
2. 攻撃したり威嚇したりしてはいけません。
追いかけて、石を投げてはいけません。興奮して突進されたり、噛みつかれることがあります。
3. うり坊（イノシシの子）を見かけても近づいてはいけません！
うり坊を見かけても、近づいたり追いかけてはいけません。近くに母イノシシがいる可能性があります。また、絶対に食べ物を与えないでください。人への警戒心を低下させ、人が食べ物の供給源だと学習させることにつながります。



イノシシ注意

★イノシシを見かけたら、管理事務所までご連絡ください。

古河公方公園管理事務所 ☎0280-47-1129

●鮮烈な赤色が映える、マユミの果実



④マユミ

■マユミの由来はその昔、この木を材料に弓を作ったことから名付けられたといわれています。色鮮やかな実は、長い間残るので、秋から冬にかけてメジロやヒヨドリなどの餌になります。

★古河公方公園公式アカウントを開設しました！

公園の様々な情報をアップしていますので、是非みなさまフォローをよろしくお願いいたします。

- ・Instagram @koga_kubou/
- ・X (旧 Twitter) @kubou_park

Instagramアカウント



X (旧ツイッター) アカウント

